

11 | 心春（こはる）/小6 女児・CANMAKE ユーザー

自分が正解でいられる時間——キャンメイクは港区私立小6 年生が外の世界と切り離され、失敗しながら自分を発見する聖域だった

3 分ブリーフィング

【パート A：普段のメイクスタイル】

根拠：キャンメイクのブラウン系アイシャドウを使用。「やってます感が出すぎる感じがして違う」「メイクしてるのかしてないのかわからないくらいの方がかっこいい」「高いコスメ使いこなせてなかったら意味ない」「キャンメイクでもちゃんと使いこなせてる方がかっこいい」と発言。情報源は Instagram。「TikTok は流行り感が強い、Instagram は自分のペースで見れる」と発言。

推論：港区私立小という高競争環境の中で、ブランドの価格・知名度ではなく「使いこなす力・センス」で差別化しようとする価値観が確立している。情報収集も Instagram による自己ペースの選択的収集を好んでおり、外部に流されない自律性が際立っている。

FD：超高収入家庭の私立小6 年生がキャンメイクを選ぶ理由は価格の制約ではない。「道具ではなく腕で勝負する」という価値観がキャンメイク選択の核心にあり、高価格ブランドの使用はむしろ「ブランドで勝負している」として否定的に評価されている。

【パート B：メイクを始めたきっかけ】

根拠：5 年生春に友達のリップグロスを見て自分で購入。母は「自分のお小遣いで買うなら好きにしたら」と発言。「自分で決めたい派だからお母さんにあれこれ言われたくない」「友達と一緒にバラバラのやつを選んだ、かぶりたくないから自分が選んだやつにしたかった」と発言。

推論：メイクの起点が母ではなく友達である点が滯・結菜と異なる。母は許可者として存在するが、メイクの動機・選択・継続すべてにおいて自己完結している。友達と一緒に買いに行きながら敢えてバラバラを選ぶという行動に、集団の中での自己主張欲求が表れている。

FD：心春のメイク開始動機に母の影響は薄い。友達という横のつながりが起点であり、そこでも「同じではなく自分らしいものを選ぶ」という自律性が貫かれている。澪・結菜が母を基準にしているのに対し、心春は最初から自分を基準にしている点が決定的に異なる。

【パートC：現使用アイシャドウについて】

根拠：「自分のメイクを作っていく過程で使ってる感じ」「失敗しても惜しくないし色もいっぱいあるから試せる」「自分に似合うものを見つけること、技術よりそっちの方が大事」「自分の顔とか雰囲気を理解することの方が大事」「自分を発見するための道具」「高いコスメは失敗できない感じ、キャンメイクなら自由に試せる」と発言。購入は事後報告。

推論：キャンメイクの価値は「価格の安さ」ではなく「失敗できる自由」として認識されている。この自由が「試す→失敗する→発見する」というサイクルを生み、自己理解のプロセスと直結している。超高収入家庭において高価格コスメが「失敗できない」プレッシャーを生む逆説的構造が存在する。

FD：キャンメイクが提供している本質的価値は「失敗できる自由」である。価格の低さが心理的安全性を生み、その安全性が自己探究の実験場としての機能を可能にしている。高収入家庭の子どもほどこの価値を意識的に評価している可能性がある。

【パートD：キャンメイクについて】

根拠：「信頼できるブランド、裏切らない感じ」「期待を裏切らない」「道具じゃなくて腕で勝負したい」「お父さんって高い時計とかしてないけどなんかかっこいい、存在感がある、それに近い感じを目指してる」「キャンメイクでそれができたら本当にかっこいい」「ブランドは手段でしかない」と発言。

推論：キャンメイクへの評価が「かわいい・安い」という表層的なものではなく「信頼・裏切らない」という本質的な信頼感に基づいている。父親の存在感への憧れがメイク哲学に直結しており、「肩書きや道具ではなく中身で勝負する」という価値観がキャンメイク選択の深層にある。

FD：心春にとってキャンメイクは「自分哲学を体現するブランド」として機能している。父親という具体的なロールモデルの価値観がメイク選択に直接影響しており、ブランドの価格や知名度を超えた「在り方としての選択」になっている。

【パート E：メイクを頑張る理由・これから】

根拠：「メイクは自分と向き合う時間」「外の世界と切り離されてる感じ」「鏡の中の自分だけと話してる感じ」「ないと自分がどこにいるかわからなくなりそう」「周りに合わせることが多いから、メイクの時間だけは合わせなくていい」「自分が正解みたいな感じ」「自分が正解でいられる時間だからやめたくない」と発言。

推論：メイクの心理的機能が「承認獲得」でも「自己表現」でもなく「自己回帰の儀式」として機能している。港区私立小という高競争・高同調圧力環境の中で、メイクが「外の世界への適応疲れを癒す内なる聖域」になっている。母が許可者でしかない孤独が逆に「自分だけの世界」を深めている可能性がある。

FD：心春にとってメイクは自己探究の入り口であると同時に、外部世界から自分を守る聖域である。「自分が正解でいられる時間」という発言は、日常的に外部基準に晒されている子どもの自己保全欲求を示しており、高競争環境に置かれた小6 女兒に特有の構造である可能性がある。

【全体総括】

根拠：「道具じゃなくて腕で勝負」「失敗できる自由」「自分が正解でいられる時間」「自分を発見するための道具」というキーワードが全パートを一貫している。

推論：心春のメイクは他者への自己呈示ではなく、完全に内側に向かった自己探究として機能している。母が許可者でしかない環境が、逆にメイクを「自分だけの聖域」として深めており、父親の価値観がメイク哲学の核心に影響を与えている。

FD：心春は「メイクは自分探究の入り口」という命題を最も内向きな形で体現するパネルである。高競争環境における自己保全の手段としてのメイクという構造は、同様の環境にいる子どもへのキャンメイクの訴求において重要な示唆を持つ。

対象者プロフィール

- 氏名：心春（こはる）
- 学年・性別：小学6年生・女兒
- 居住エリア：東京都港区
- 父職業：外資系コンサル

- 母職業：財閥系専門職
 - 学校種別：私立小・第1子（一人っ子）
 - 世帯年収：1,400万円
 - 小遣い：月1,500円
 - 使用ブランド：キャンメイク（プティパレットアイズ）
 - メイク頻度・シーン：週1～2回・週末の友達との遊びや外出時
 - 購入区分：貯めたお小遣いから、友達同士の外出時に自購入
-

発言録

パートA：普段のメイクスタイル

AI モデレーター：こんにちは！今日はメイクのこと、いろいろ教えてもらえると嬉しいな。まず自己紹介してくれる？名前と学年と、好きなこと教えて。

心春：心春っていいです。小6です。好きなことは、友達と出かけることと、あとネイルとかメイクとかおしゃれ全般が好きです。

AI モデレーター：おしゃれ全般が好きなんだね。メイクとネイル、両方やるの？

心春：うん。ネイルはシールとか貼るやつで。メイクはアイシャドウだけだけど、ちゃんとやってる。

AI モデレーター：ちゃんとやってる。今日もメイクしてきてくれた？どんなメイクしてるか教えて。

心春：今日はキャンメイクのアイシャドウで、ブラウン系にした。友達と出かけるから、ちょっと大人っぽい感じで。

AI モデレーター：友達と出かけるから大人っぽい感じにした。今日のメイクのテーマってそういう感じ？

心春：そう。なんか、友達の中でメイクの話になった時に、ちゃんとしてるって思われたくて。

AI モデレーター：友達の中でちゃんとしてるって思われたい。友達もメイクしてる子多いの？

心春：うん。クラスの子はほとんどやってる。やってない子の方が少ないくらい。

AI モデレーター：ほとんどやってるんだね。みんなどんなブランド使ってる？

心春：いろいろ。キャンメイクの子もいるし、ロムアンドとか韓国コスメの子もいる。あと NARS とか、お母さんのもらってる子もいる。

AI モデレーター：NARS まで出てくるんだね。心春ちゃんはキャンメイクを選んでも、それってなんで？

心春：自分で買えるから。あと、キャンメイクって色がちゃんとかわいいから。安いからって馬鹿にできないというか。

AI モデレーター：安いからって馬鹿にできない。それってどういう意味？

心春：なんか、高いコスメ使ってる子もいるけど、使いこなせてなかったら意味ないじゃないですか。キャンメイクでもちゃんと使いこなせてる方がカッコいいと思う。

パート B：メイクを始めたきっかけ

AI モデレーター：メイク、いつ頃から始めたの？最初に何をやってみたか覚えている？

心春：5 年生の春くらい。最初はリップグロスで。友達が使ってた、私も欲しくなってる。

AI モデレーター：友達が使ってた欲しくなったんだね。お家の人には言ったの？

心春：お母さんに言ったら、「自分のお小遣いで買うなら好きにしたら」って言われて。それで自分で買いに行った。

AI モデレーター：自分のお小遣いで買うなら好きにしたら、か。お母さんはメイクについてどんな感じ？

心春：お母さん自身はメイクしてるけど、私のメイクにはあまり関心ない感じ。好きにしなさいって感じで。

AI モデレーター：好きにしなさい。それって寂しい感じ？それとも自由でいい感じ？

心春：自由でいい。自分で決めたい派だから。お母さんにあれこれ言われたくないし。

AI モデレーター：自分で決めたい派なんだね。アイシャドウはいつから？

心春：5 年生の終わりくらい。友達の間でアイシャドウの話になって、私も欲しくなってる。キャンメイクのパレットを友達と一緒に買いに行った。

AI モデレーター：友達と一緒に買いに行ったんだね。その時どんな感じだった？

心春：楽しかった。みんなで色選んで、これ似合うんじゃない？とか言いながら。結局みんなバラバラのやつ買ったけど。

AI モデレーター：みんなバラバラのやつを買った。それって意識してバラバラにしたの？

心春：なんとなく。かぶりがたくないっていうか、自分が選んだやつにしたかったから。

AI モデレーター：自分が選んだやつにしたかった。友達と一緒にいるけど、選ぶのは自分、が大事なんだね。

心春：そう。友達と同じにしたいっていうか、自分らしいものを選びたい。

パートC：現使用アイシャドウについて

AI モデレーター：今使ってるキャンメイクのパレット、なんで欲しくなったの？

心春：色の種類が多くて、自分でいろいろ組み合わせできるから。あとパッケージがシンプルでかわいくて。

AI モデレーター：自分でいろいろ組み合わせできるのが好きなんだね。どんな組み合わせが好き？

心春：ブラウン系をメインにして、ちょっとだけラメを乗せる感じ。あんまり派手にしたくないから。

AI モデレーター：あんまり派手にしたくない。それってなんで？

心春：なんか、派手なメイクって、やってます感が出すぎる感じがして。もうちょっとさりげない方がかっこいいと思う。

AI モデレーター：やってます感が出すぎる。それって誰かを見てそう思った？

心春：友達で、すごく濃いメイクしてる子がいて。かわいいんだけど、なんか違うなって思って。それより、メイクしてるのかしてないのかわからないくらいの方がかっこいいなって。

AI モデレーター：メイクしてるのかしてないのかわからないくらいの方がかっこいい。それって結構難しくない？

心春：難しい。でもそこを目指してる。キャンメイクのブラウン系って、ナチュラルに見えるから練習しやすくって。

AI モデレーター：練習しやすい。キャンメイクって練習のためのブランドって感じ？

心春：練習っていうか...なんか、自分のメイクを作っていく過程で使ってる感じ。失敗しても惜しくないし、色もいっぱいあるから試せる。

AI モデレーター：自分のメイクを作っていく過程。それって今どのくらいの段階？

心春：まだ途中。ブラウン系はわりとできてきたけど、もっといろんな色試してみたくて。

AI モデレーター：キャンメイクを使いこなすって言ってたけど、それって具体的にどういうこと？メイクの技術を磨くってこと？

心春：技術もあるけど...それだけじゃなくて。自分に似合うものを見つけること、かな。

AI モデレーター：自分に似合うものを見つけること。それって技術とどう違うの？

心春：技術って、うまくできるかどうかじゃないですか。でも似合うかどうかって、うまくできてても似合わなかったら意味ないから。自分の顔とか雰囲気とか、そういうのを理解することの方が大事な気がする。

AI モデレーター：自分の顔とか雰囲気を理解すること。それって今できてると思う？

心春：まだ途中。なんか、ブラウン系は自分に合ってるってわかってきたけど、まだ全部はわかってない。

AI モデレーター：まだ途中。それってどうやって理解していくの？

心春：試してみるしかないと思って。だからキャンメイクって、色が多くて試しやすいから使ってる。失敗しても惜しくないし。

AI モデレーター：試して失敗して、それで自分を理解していく感じ。それってメイク以外にも通じる感じある？

心春：あるかも。なんか、自分に何が合ってるかって、やってみないとわからないじゃないですか。メイクって、それが一番わかりやすく試せる場所な気がする。

AI モデレーター：メイクが一番わかりやすく試せる場所。それってどういう意味？

心春：なんか、服とかって一回買ったら変えにくいじゃないですか。でもメイクって毎日変えられるから。今日はこれ、明日はこれって試せる。だから自分のことを知るスピードが早い気がして。

AI モデレーター：毎日試せるから自分のことを知るスピードが早い。キャンメイクはその実験台になってるんだね。

心春：実験台って言うところとちょっと違うけど...なんか、自分を発見するための道具、かな。

AI モデレーター：自分を発見するための道具。それがキャンメイクなんだね。

心春：うん。高いコスメって、失敗できない感じがして。でもキャンメイクなら、自由に試せる。その自由さが今の自分には合ってる。

パートD：キャンメイクについて

AI モデレーター：お母さんって、心春ちゃんのメイクに興味ない感じって言ってたけど、メイクについて話したりすることってある？

心春：あんまりない。お母さん自身はメイクしてるけど、私のメイクについては特に何も言わない。

AI モデレーター：何も言わない。たとえば今日のメイク見てどうだった？

心春：今日は...特に何も言ってなかった。出かける前に見てたと思うけど、何も言わなかった。

AI モデレーター：何も言わなかった。それって心春ちゃんはどう感じた？

心春：...別にいいけど。でもたまに、どう？って聞きたくなる時もある。

AI モデレーター：どう？って聞きたくなる時もある。その時はどうしてるの？

心春：聞かない。なんか、聞いて「普通じゃない」って言われたら嫌だから。聞かない方が安全というか。

AI モデレーター：聞かない方が安全。お母さんに否定されたくないってこと？

心春：否定というか...なんか、お母さんのセンスと私のセンスって違う気がする。だから聞いても意味ないかなって。

AI モデレーター：センスが違う。お母さんはどんなメイクするの？

心春：きっちりした感じ。仕事だからかもしれないけど、ちゃんとしたメイクで。私が目指してる感じとはちょっと違う。

AI モデレーター：目指してる感じが違うんだね。じゃあ心春ちゃんのメイクをわかってくれる人って誰？

心春：友達かな。友達の方がわかってくれる。あの色いいねとか、そのやり方どうやったの？とか話せるから。

AI モデレーター：友達がわかってくれる存在なんだね。お母さんじゃなくて。

心春：...うん。お母さんはメイクを許可してくれてる感じで、わかってくれてる感じとはちょっと違う。

AI モデレーター：キャンメイク、心春ちゃんにとってどんなブランド？

心春：なんか、信頼できるブランドって感じ。裏切らない感じというか。

AI モデレーター：裏切らない感じ。それってどういう意味？

心春：色が想像通りにちゃんと出るというか。安いのに、ちゃんと使えるから。期待を裏切らない感じ。

AI モデレーター：期待を裏切らない。友達の中でキャンメイクってどういう存在？

心春：みんな持ってる感じ。クラスでキャンメイク知らない子いないくらい。

AI モデレーター：みんな持ってるのに、心春ちゃんはキャンメイクを選んでは。さっき、高いコスメ使いこなせてないより、キャンメイクを使いこなせてる方がカッコいいって言ってたけど、それってもう少し教えてくれる？

心春：なんか...クラスに **NARS** とかシャネル使ってる子いるんだけど、メイクがまいちな子がいて。ブランドで勝負してる感じがして、なんか違うなって思って。

AI モデレーター：ブランドで勝負してる感じが違う。じゃあ心春ちゃんは何で勝負したいの？

心春：技術というか、センスというか。同じキャンメイク使っても、仕上がりが違うじゃないですか。そこで差をつけたい。

AI モデレーター：同じキャンメイクで差をつけたい。それって友達に対して意識してること？

心春：意識してる。なんか、道具じゃなくて腕で勝負したい感じ。

AI モデレーター：道具じゃなくて腕で勝負。それってカッコいいと思う大人のイメージと関係ある？

心春：あるかも。なんか、本当にできる人って、道具とか肩書きで勝負しないじゃないですか。中身で勝負する感じ。お父さんとかもそういう感じがして。

AI モデレーター：お父さんがそういう感じ？

心春：なんか、お父さんって別に高い時計とかしてないけど、なんかかっこいいんですよね。存在感があるというか。それに近い感じを目指してる。

パートE：メイクを頑張る理由・これから

AI モデレーター：心春ちゃんって、なんでメイク頑張ってると思う？自分的にはどういう気持ちでやってる？

心春：なんか、ダンスしてる時みたいな自分に、普段もなれる感じがするから。

AI モデレーター：最後にひとつだけ聞かせて。心春ちゃんにとって、メイクって何？自分の言葉で教えてくれる？

心春：...自分と向き合う時間、かな。さっきも言ったけど、メイクしてる時って、自分のことだけ考えてる。外の世界と切り離されてる感じがして。

AI モデレーター：外の世界と切り離されてる感じ。それってどういう時間？

心春：なんか、学校とか友達とか、いろんなことを気にしないでいい時間。鏡の中の自分だけと話してる感じ。

AI モデレーター：鏡の中の自分だけと話してる。それって心春ちゃんにとって必要な時間？

心春：必要。ないと、なんか自分がどこにいるかわからなくなりそうな気がして。

AI モデレーター：自分がどこにいるかわからなくなりそう。それってどういう感じ？

心春：なんか...周りに合わせてることが多いから。友達の間でも、家でも。メイクの時間だけは、合わせなくていい。自分が正解、みたいな。

AI モデレーター：自分が正解。その感覚、大事にしてるんだね。

心春：うん。だからメイクをやめたくない。自分が正解でいられる時間だから。